



柱状改良工法を超える新工法

3年間で年間2万棟を目指す

地盤改良工事において柱状改良工事は全体の7割のシェアを占めている。この工事分野に新しい工法を導入しようとする動きが起きている。

ピユアパイル工法普及振興会は、11月27日に全国の指定施工会社20社を招いて初の経営者懇親会を開催。販売目標として、3年後のピユアパイル工法の年間施工棟数を2万棟、施工機台数を240台に拡大。200億円規模の市場を目指す。

ピユアパイル工法は、建築物の柱状改良工法をはじめとした様々な地盤技術のノウハウを持っており、大手住宅メーカーの型式認定のパイオ

ニアでもあるテクノックスと保険法人のJIOの100%子会社であるJBサポートが協同で開発。これまでの柱状改良工法では土とセメントを混ぜる必要があったが、ピユアパイル工法では水とセメントを添加剤であるセメントミルクだけを用いる。

掘削ロッドを回転させて所定の深さまで掘削。セメントお吐き出しながら引き上げる作業を何度か行えば完成。杭に水平力をかけなくて良い設計手法である。216・3mmの鋼管を用いるので、これまでの柱状改良用の施工機を用いてロッドと先端の刃を購入するだけで簡単に導入することができる。

施工実績としては2011年に全国販売を開始して1年半で1000棟。登録施工機は96台。決め手の一つにコストダウンがある。土の攪拌が要らないため工期短縮で柱状改良の2割程度安くでき、残土処理費用も発生しないメリットがある。